



ウェルビー

2017 年 4 月 第 30 号



- 新入職の方々を迎えました
- 第 15 回南労会学術研究発表会
- 花山温泉講演会
- 地域ボランティアと作る「交流広場」サークルKIWA
- 病院で、サプライズウェディング

～連載～

■ 教えて！認定看護師さん

- 日本ホスピス緩和ケア協会の認証を受けました
- お医者さんと話そう～がんや病気のあれこれ～
- 自らの生き方を考える～職場体験～

～連載～

■ 地域連携室便り 地域の架け橋

～初午～

“森のこかげ”

3 月 7 日・8 日に初午の餅まきイベントを行いました。
患者さん、利用者さんがお菓子やカップケーキなど袋
いっぱいに拾われて楽しめました。



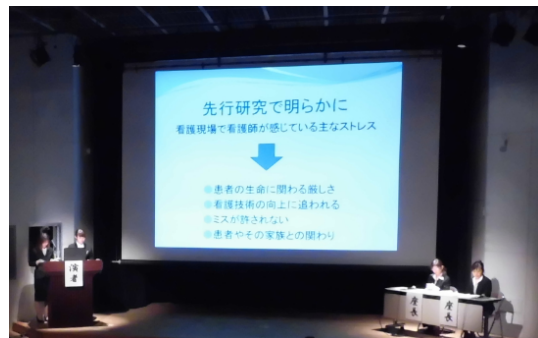
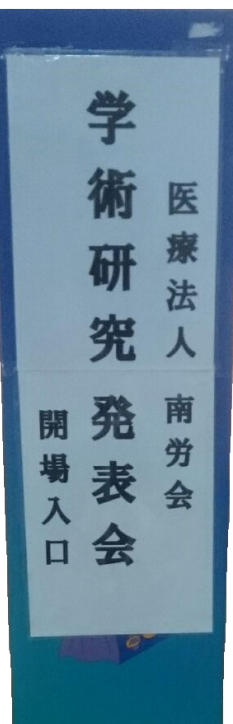
～お花見～

“緩和ケア病棟”

3 月 29 日に当院の庭園でお花見をしました。暖かい日
差しを浴びて春の陽気を感じながら、楽しい一時を過
ごされました。

医療法人 南労会 学術研究発表会

3月18日、第15回学術研究発表会をかつらぎ総合文化会館「あじさいホール」にて開催しました。総演題数は19題、発表会出席者は140名と多くの職員が参加しました。他の職種の発表内容を聴講し、新たな発見が生まれたかもしれません。また今回は、優秀演題を選出するという新たな試みも行いました。



「お父さんに、ドレス姿をみせてあげたいのです」
障害者施設等一般病棟に入院している患者さんの娘さんから病棟師長に相談がありました。娘さんのご両親への想いが伝わり看護師がコーディネーターとなり打合せを行い、ご両親に内緒で式の準備を始めました。
また地元企業や病院ボランティアの方々がこの結婚式に賛同くださり、バージンロード用の絨毯を、お花屋さんがブーケ、ブートニアを、そしてメイクはボランティアさんがご協力くださいました。

そして迎えた3月29日。受け持ち看護師司会のもと、新郎新婦の想い、家族の想い、スタッフの想いをのせて挙式は進んでいきます。お父さんの目は懸命に花嫁姿を追っていました。ご両親への手紙、ケーキ入刀、花束贈呈などを行い結婚式は無事終了しました。お父さん、お母さんの目にはうれし涙が流れていました。時間にしてわずか30分という短い式でしたが、病院スタッフも心に深く刻まれた、忘れがたい30分となりました。

♡
◇
HAPPY
♡
WEDDING!
♡
◇
♡



2016. 04. 03

平成 29 年度 新入職の方々を迎えました



4月1日付で新入職者39名を迎えることができました。

新しい環境に慣れ安心して業務に取り組めるよう、きめ細かい内容の新入職者研修を行いました。みなさん真剣な表情で、研修を受けていました。

一人ひとり暖かく優しい人ばかりで、患者さんにもきっと心のこもった看護をしてくれると感じました。



看護師・准看護師	18名	薬剤師	1名
看護助手	1名	臨床工学技師	2名
歯科衛生士	1名	事務員	1名
リハビリスタッフ	15名	合計	39名

講演会 in 花山温泉 薬師の湯



乳腺外科 梅村医師が花山温泉で講演をしました。似顔絵コーナーや、ピンクリボン啓発コーナーなど、さまざまな出店ブースがあり、講演会も質問形式の内容で、みなさんと一緒に盛り上がることであり、貴重な一日を過ごさせていただきました。ありがとうございました。



第5回 地域ボランティアと作る「交流広場」 サークルKIWA



ハーモニカで綴る 思い出のあの名曲



次第に暖かくなる3月24日に、ハーモニカの演奏会がありました。のぞみハーモニカクラブの7名の方が来てくだ

さり色々な名曲を披露してくださいました。患者さんも、一緒に歌い手拍子をうち、楽しい時間を過ごしました。アンコールにも応えてくださって、みんなで大熱唱♪

素敵な音色で癒された一日でした。

教えて！認定看護師さん



スキンケア領域の予防・治療を通じて、 患者さんの快適な日常生活(QOL)をサポートしたい

皮膚・排泄ケア認定看護師 大田 康雅

皮膚・排泄ケア認定看護師とは、創傷・ストーマケア・失禁看護領域における専門の教育を受けた看護師のことです。問題を抱えている方に対して専門的な技術や知識を持ってケアに関する事を目的としています。

例えば、ストーマケアでは、ストーマを造設された方のストーマ装具の交換方法や、皮膚の観察をはじめとした合併症予防など、社会復帰するまでの生活指導や、家に帰ってからのライフスタイルに関する相談や援助を行います。

創傷ケアは、傷が治る環境を整えて自然治癒を促すケアです。傷の状態を評価し、医師と共に治癒効果をあげるために使用する薬剤の選択や、創傷ケア用品の選択を行い傷の管理をします。また褥瘡（床ずれ）予防として、適切な体圧分散寝具の選択を行い褥瘡（床ずれ）の発生予防を行います。もし褥瘡（床ずれ）が発生した場合は、その傷が悪化することを防ぎ、傷の出来た原因を追求しながら、傷のケアを行います。

失禁ケアに関しては、失禁に伴う皮膚障害の改善とその予防を行います。尿失禁用のパットの紹介やオムツかぶれなどのスキンケア用品の選択を行い、治療や予防に努めてまいります。

スキンケアや排泄ケアは看護の基本です。この基本的な部分において専門的なケアを提供することで、皆様により良い生活を過ごして頂くことを常に願い今後活動していきたいと考えます。皆様と共に、一人でも多くの方の笑顔が拝見できるよう努力してまいりますと存じます。

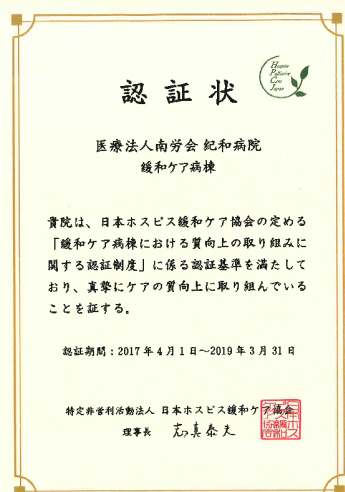
日本ホスピス緩和ケア協会の 認定を受けました

当院では、今年度から日本ホスピス緩和ケア協会が主導して開催されたホスピス・緩和ケア病棟の認定制度に向けた取り組みを行い、認証を受けることができました。

認定制度はホスピスのケアの質を評価・公開することによりすべての施設で質の高いケアが提供されること、社会から信頼される施設となることを目的として実施されています。

具体的には以下の3点の実施が求められます。

- 1) 協会が毎年行っている施設概要・利用状況調査に回答し、結果を社会に公開する＝公開
- 2) 自施設評価共有プログラムを実施する＝自律
- 3) 第三者からの評価（遺族による評価：J-HOPE 研究）を受ける＝謙虚



お医者さんと話そう！ ～がんや病気のあれこれ～



隅田地区公民館で緩和ケアに関する講演会・相談会・体験イベントを開催しました。講演終了後に廣岡医師による個別相談も実施しました。

今後も地域のみなさんが不安や疑問に思っていることに応えられたらと考えています。各地区で交流できる場を持ちたいと考えています。



2017.4.1



紀和病院では職場体験の受け入れを行っています。
職場体験とは、生徒の皆さんが実際の職場で働いてみたり実際の仕事を体験してみたりするといった、学校教育の一環で行われる学習活動です。
2016年度も紀和病院は、近隣の中学校や高校より合計16名の生徒を受け入れました。数ある職場体験先の中から医療施設を選んできて頂いているので、医師や看護師といった職業に関心がある方が多いです。紀和病院の職場体験では、手術室やリハビリの運動室を見学したり、看護師が日常的に行っている手洗いや血圧測定を実際に体験したり、または同一法人内の介護事業所にて医療以外の介護・福祉といった活動も見学・体験して頂いています。
生徒の皆さんに業務や仕事を説明する一方で、私たち職員が逆に教えられることも多いです。新鮮な驚きや職員とは異なる捉え方を目の当たりにすることで、私たち病院の職員としても心持ちを新たに、患者さんや地域の方々への医療をより一層励んでいこうという気持ちになります。紀和病院は、これからも職場体験の受け入れを通じて地域との交流を増やし、より地域に密着した病院を目指していきたいと考えています。

地域連携室便り

虎谷内科小児科医院

〈当院の紹介〉



平成13年11月6日 父親である前院長を自宅で看取りまして、同年同月10日に現在の橋本市高野口町向島に移転開業し現在にいたっております。アニメーターをしている高校の同級生に医院のトラのキャラクターを描いてもらいました。京都府立医科大学在籍時には循環器科、呼吸器科、肝臓内科、消化器科など担当内容が目まぐるしく変化し、その経験は現在の診療にいくらかは役立っているのではないかと考えています。

現在の外来診療内容は小児から高齢の方を含めた日常感染症が多く、それらはリアクション医療で重要ですが、今後は医院として自主的な方向性を示して行かなければいけない時代になってきていると感じます。学校保健担当であることもあって日本アレルギー学会、食物アレルギー研究会などにも参加し情報収集を試みています。また在宅医療では高齢者が多く、紀和病院の先生方のおかげで何とか医療として成立しているような状況です。今後は連携診療所として各疾患のスタンダードな医療を改めて勉強し再確認していきたいと存じます。

趣味としてテニスと映画鑑賞で、休日早朝あるいは夜遅くにテニスをしています。映画館では、よく緊急呼び出しをもらいますし。連絡がつかないときは、たいていテニスコートにいます。

〈紀和病院との連携・望むこと〉

明石市立市民病院を退職し当地へ移った時期に短期間ではありましたが紀和病院内科で勤務させていただきました。当時と現在の紀和病院は皆様ご存じのように大きく変化し施設はさらに拡充しています。しかし当時の病院業務は、やはり大変で、先生方や各職員さまの熱意で動いていたように記憶します。その熱意は現在も変わらず存続し地域医療にはなくてはならないものになっていると考えます。それゆえ望むことといっても贅沢ですが、連携時のスムーズな情報交換に役立つ、各分野の医療内容均一化や医療レベル向上を図るための仕組みや小規模研修会の開催などあればありがたいと存じます。普段から在宅医療などに関して十分なバックアップをしていただき大変感謝しております。今後とも益々のご発展を期待しております。

*本文は院長 虎谷 彰久 先生よりご寄稿いただきました。

虎谷内科小児科医院

TEL 0736-42-2802 〒649-7206 橋本市高野口町向島 177

院長 虎谷 彰久先生

虎谷
小児科
医院

